

概観

【政治・社会】

- ・ 4日、夏期休会後の国民議会が開会した。国民議会の前では反政府抗議行動が行われた。
- ・ 19日、オレシャルスキ政権に対する初の不信任案がGERBによって提出された。
(注：10月2日、本不信任案は否決された)
- ・ 9月末時点の難民数はシリア人を含む5,815名であり、昨年の7倍以上となっている。

【経 済】

- ・ 4日、国家統計局の発表によると、ブルガリアの今年第2四半期の成長率は前期比で▲0.1%となった。
- ・ 9日から12日にかけてのオレシャルスキ首相の中国訪問では、中国側からは鉄道、港及び道路のインフラ、観光、農業等への関心が示された。

【我が国との関係】

- ・ 24日、プレヴェン市において、ノン・プロジェクト無償資金協力見返り資金活用プロジェクトである「プレヴェン医科大学施設整備計画」に係る完工式が行われた。

この月報はブルガリア各種メディアの報道ぶり等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

1. 内政

(1) 政府の動き等

◆国民議会の秋会期の開会

▶ 4日、国民議会の秋の会期が開会した。会期の始まりにあたり、BSPのスタニシェフ党首は、我々は抗議者とも議会反対勢力とも対話する用意がある、我々は政府に対し、年末まで又は来年の5月までといった期限を設けるべきでない、期限がある政府では踏み込んだ変革を行うことが難しい、と述べた。GERBのポリソフ党首は、現政府は支持を失っており、国家が平静を取り戻すためにも辞任すべきだ、と述べ、再度オレシャルスキ政府の辞任を要求した。

◆抗議行動

▶ 国民議会の秋会期の初日となった4日朝、国民議会の前には数百人の反政府抗議行動の参加者が議員を「大歓迎」するため集合し、抗議デモを行った(注：反政府抗議行動は、国民議会の夏期休会中は中断されていた)。今回の「大歓迎」抗議デモは、GERBや「改革派ブロック」が公に支持した。

▶ 同日夕方、約5千人の抗議者が閣僚評議会前の独立広場に集合し、反政府の抗議行動及び行進を行った。行進は従来のルートではなくソフィア大学に向かう通りで行われたが、通りは封鎖された。

▶ 反政府抗議行動と並行して、オレシャルスキ政権の支持行動がアレクサンドル・ネフスキー寺院の南側で行われ、多くの支持者が地方からバスでソフィア市に乗り付けた。

(注：その後、国民議会の夏期休会前に毎日行わ

れていた行進等による抗議行動は下火となっているが、散発的な抗議行動は発生している。）

◆オレシャルスキ政権の100日間報告

▶19日、オレシャルスキ首相は国民議会において、政権発足後100日間に関する報告を行った。同首相によれば、同政権の最も大きな達成は「国家を恐怖から解放したこと」である。同首相は、100日間に実施した施策として、企業への国家債務の支払い、行政負担の軽減、寡占の圧力への対処、社会的弱者への支援、組織犯罪対策の最初の成功等について言及した。同首相によると、同政権が行った施策の多くは、エネルギー分野における企業の経済活動の促進、競争的な経済環境の醸成、寡占との闘いを目的とするものである。

▶議員に配布された「100日間で100施策の実施」と題する報告書では、自らを複雑な政治状況の中で機能している唯一の政権であるとし、これまで行われた具体的な方策について言及している。報告書によると、同政権は自らを「最もアカデミックな政権」、「最も政党党員が少ない政権」、「最も女性閣僚の多い政権」と評している。なお、同政権の閣僚には4名の教授と6名の助教授がいる。また、閣僚のうち党員であるのは4名のみであり、18名の閣僚のうち7名が女性である。また、同政権は、これまでの自らの働きを学校の2から6までの成績評価で「5」とであると評価した。

◆GERBによるオレシャルスキ政権に対する不信任案の提出

▶19日、GERBはオレシャルスキ内閣に対する初の不信任案を提出した。本不信任案は、投資計画省の失政に対して提出された。

▶25日、GERBが議会で出席登録を行わず定足数を満たさなかったため、本会議は不成立となった。

▶26日、ミコフ議長は、電子的な出席登録システムではなく、議場にいる議員を定足数に含むことができる」と規定する議会規則に基づき、本会議の開始を宣言した。GERBの議員は抗議したが、

同議長は、議場には207名の議員がいるので会議を開始した、と述べた。GERBのポリソフ党首は退場し、内閣不信任案の議論は当案の提出政党であるGERBの出席なしに行われた。また、アタッカの議員も、同党の議員全員がブリュッセル訪問中であるため、出席しなかった。これに対し、GERBは、本会議の成立は正当性がないとして、憲法裁判所に提訴することを予定している。また、GERBは、正当性のない本会議に関与したミコフ議長、マノロヴァ副議長、ビセロフ副議長の辞任を求める動議を提出した。

▶27日も定足数不足のため、本不信任案の決議は行われなかった。GERBの議員は定足数に数えられないようにするため議場には入らなかった。

（注：10月2日、本不信任案の議決が行われた結果、本不信任案は否決された。）

◆オレシャルスキ政権の統治プログラム

▶20日、オレシャルスキ首相は、「国家、発展、正義」と題する政府の統治プログラムを国民議会に提出した。本プログラムは欧州・大西洋志向の深化、インフラの近代化に焦点が当てられている。また、ビジネス界に対する行政負担の軽減、金融部門における規制の強化、反寡占政策など、国家の規制機関としての役割を特別に強調するものとなっている。

（2）政党の動き

◆「改革派ブロック」の動き

▶10日、改革派ブロックは25名の委員から成る市民委員会を発表した。委員の中には自由戦略センターのゲオルギ・ガネフ氏、文筆家のカリン・テルジスキ氏、元経済大臣のトライチョ・トライコフ氏、社会人類学者のハララン・アレクサンドロフ氏、社会学者のツヴェトザル・トモフ氏等がいる。同ブロックの決定は市民委員会及び7政党の代表者14名の共同で行われる。DSBのクネフ党首は、同ブロックはBSPやMRFに対しては閉ざされており、陣営に大きな変更でもない限りGERBと協力するつもりはないと述べた。

◆バレコフ氏の新党「検閲のないブルガリア」

▶12日の報道によると、元TV7のディレクターであったニコライ・バレコフ氏が旗揚げした新党「検閲のないブルガリア」は、来年5月の欧州議会選挙への出馬を予定している。

◆「市民のブルガリア」党首にクネヴァ氏

▶21日、「市民のブルガリア」の第2回国民党会合でメグレナ・クネヴァ氏が党首に再選された。クネヴァ氏は5月に行われた総選挙の結果を受けて党首を辞任していた。

◆GERB離党者による新党BASTAの始動

▶22日、GERB離党者による新党BASTAが公式に始動した。新党にはGERBの現職議員はいない。同党は党首が存在せず、11名の党員から成る評議会が党を代表する。ナイデノフ元農相やディミトロフ元議員、その他の元GERBの党員は年長者評議会に所属することになるが、実権を持つことはできない。

(3) その他

◆ペエフスキ議員の国家保安庁長官選出問題

▶9日、BSPのスタニシェフ党首は、bTVのインタビューにおいて、ペエフスキ議員の国家保安庁(SANS)長官選出はMRFのイニシアチブによるものであったことを公式に認めた。ただし同党首は、MRFのドガン名誉党首による指名であったかとの問いには答えなかった。

◆プレヴネリエフ大統領と市民との対話

▶17日、ソフィア市においてプレヴネリエフ大統領と「市民との対話」が開催され、市場経済についての議論が行われた。本対話はレディング欧州委員会副委員長が7月に行った市民対話のフォローアップとして行われた。

◆ヴァルナ市長はポルトニッチ氏に確定

▶30日、最高行政裁判所はイヴァン・ポルトニッチ氏(GERB)をヴァルナ市長であると確定した。本市長選挙の結果については、敗れた対立候補のフリスト・ボゾフ氏が異議申立てを行っていた。

2. 外政

(1) シリア情勢に関する動き

◆シリア情勢に関する首相及び外相の発言

▶4日、オレシャルスキ首相は、ブルガリアは欧州・大西洋のパートナー諸国からシリア情勢に関する参加要請を受けていない、と述べ、政府はシリア危機の政治的解決を望んでいる、国連安全保障理事会での統一した決定が危機脱出の最も適切な方法である、と述べた。また、ヴィゲニン外相は、ブルガリアはシリアに関する「有志連合」に参加する可能性は低い、一番良いのは国連安全保障理事会、特に常任理事国が責任を持って危機の解決策を提案することである、と述べた。

▶9日、外務省は中東情勢の悪化に鑑み、シリア及びレバノンにいるブルガリア国民に対し改めてシリアからの即時退去警告及びレバノンからの退去勧告を発表した。

◆米軍との軍事演習の実施

▶6日の報道によると、500人以上の米軍部隊員やヘリコプター、多くの軍事装備がスリヴェン市近くのノヴォ・セロ基地に集結している。米空軍機はすでにブルガリアの空港に着陸している。これらは全て、ブルガリアー米国間の初の特別軍事演習に含まれる予定のものである。軍事演習の主な焦点はテロとの戦いである。ブルガリア国防省は、これはブルガリアー米国の共同軍事演習計画の実行であり1年前から計画されたもので、シリア情勢とまったく関係がない、と述べている。

◆難民に関する動き

▶9日、ヨフチェフ内相は、難民問題についてマルムストロム欧州委員と協議を行った。同内相は、ブルガリアはEUからシリア危機に起因する難民

流入の増加に対処するための技術的及び専門的支援を受けることになるだろう、と述べた。

▶13日、オレシャルスキ首相はヴィーヘUNHCR中欧代表と面会した。同代表は、UNHCRはブルガリアに難民危機に対応するための技術的支援を行う予定であると述べた。

▶18日、ブルガリア赤十字は難民支援のための寄付金受付を開始した。

▶23日、オレシャルスキ首相は、トルコは不法難民の流入が減少するようブルガリアとの国境管理に力を入れることを約束した、と述べた。また、ブルガリア、ギリシャ、トルコの3ヶ国による管理センターがカピタン・アンドレエヴォの国境管理地点に近く開設される予定となっている。

▶24日付報道によると、難民の数は4,654名に達した。また、内務省によると、26日にトルコとの国境を越えブルガリアに不法に侵入した難民は136名であり、うち125名はシリア人であった。27日から3日間の間では294名(うちシリア人は164名)にのぼった。

▶27日、500名を収容することができる新施設がソフィア市郊外に開設された。同日、ブルガリア赤十字(BRC)は、ソフィア市及び南部エルホヴォ市の難民施設は非常に劣悪な状況にあると警告した。

(注：10月4日の報道によると、9月末時点の難民数は5,815名であり、昨年7倍以上となっている。)

◆シリア情勢に関する共同声明の発表

▶18日、プレヴネリエフ大統領及びオレシャルスキ首相は、シリア危機に関する共同声明を発表した。声明では、「ブルガリアは8月21日に開始されたダマスカス近郊での化学兵器による攻撃を強く非難する。本攻撃は国際法違反であり人類に対する犯罪である。我々は国連の化学兵器禁止機関による報告を含めた国連の枠組みでとられる行動に注意深く従う」等が述べられた。

(2) その他

◆ヴィゲニン外相：EU外相非公式会合出席

▶6日及び7日、ヴィゲニン外相は、ヴィリニウスで行われたEU外相の非公式会合に出席した。同外相は、シリアでの一方的な軍事行動は賛同できない、EU内には、解決へ向けた努力が必要であり、国連安全保障理事会には次の段階に向けた責任があるとの立場に対する強い支持がある、と述べた。

◆プレヴネリエフ大統領：エストニア訪問

▶12日及び13日、プレヴネリエフ大統領はエストニアを訪問した。今回の訪問は同国のイルヴェス大統領の招待によるものである。訪問の主な目的はエストニアにおける電子政府の長年の経験について調査するためである。13日、プレヴネリエフ大統領はタリンのNATOサイバーセキュリティセンターを訪問した。

◆オレシャルスキ首相：ブリュッセル訪問

▶13日、オレシャルスキ首相はブリュッセルを訪問し、社会民主進歩同盟のハンネス・スウォボダ代表と面会した。両者はブルガリアの抗議行動について議論した。

◆セルビア大統領のブルガリア訪問

▶18日及び19日、ニコリッチ・セルビア大統領は、プレヴネリエフ大統領の招待によりブルガリアを訪問した。

▶18日、両大統領は会談を行い、セルビアのブルガリア国境近くの市町村に在住するブルガリア系マイノリティについて協議した。また、両大統領は両国間のビジネスを奨励すると述べ、二国間ビジネスフォーラムのオープニングに参加した。

▶19日、ニコリッチ大統領は、オレシャルスキ首相と会談した。同首相は、ブルガリアはセルビアに対しEU統合の先輩として有益なアドバイスを提供できると述べた。これに対し、同大統領は、セルビアとしてはブルガリアの協力を頼りにしている、と述べた。また、同首相は両国間に大きな懸案はなく、完全に解決していない

問題については引き続き作業を続けると述べ、両国間で貿易・投資を拡大する余地があると述べた。

◆ヴィゲニン首相：ワシントン訪問

▶18日から20日にかけて、ヴィゲニン外相はワシントンを実務訪問した。19日には議会図書館において米・ブルガリア外交関係樹立110周年を記念する午餐会が行われた。また、同外相は、マーフィ上院議員（上院外交委員会欧州小委員会委員長）等との会合において、ブルガリア国民の米国入国査証問題を提起した。

◆プレヴネリエフ大統領及びヴィゲニン外相の国連総会出席

▶プレヴネリエフ大統領及びヴィゲニン外相は第68回国連総会に出席のためニューヨークを訪問した。

▶23日、プレヴネリエフ大統領は、潘基文国連事務総長と会談し、シリア情勢や難民問題について議論を行った。

▶24日、プレヴネリエフ大統領は国連総会で演説を行った。同大統領は、ミレニアム開発目標である貧困との闘いに関し、多くのことが達成されたが、進展は断続的で限られたものとなっている、と述べた。また、同大統領は、8月21日のシリアでの化学兵器による攻撃を非難し、ブルガリアはシリアからの難民の流入に対処するため国連の人道支援組織に頼ることになるだろう、等と述べた。また、同大統領は、近隣諸国との友好関係も強調した。

▶同日、ヴィゲニン外相は、イスラエルのユバル・シュタイニッツ国際協力・情報戦略問題担当大臣、レバノンのアドナン・マンスール外相と会談し、ブルガス空港のテロ攻撃について議論した。また、同外相は、カタールのハリド・モハメド・アル・アティヤ外相、アラブ連盟のナビル・アラビ事務局長とも会談し、シリア危機について議論した。同外相はその他、パレスチナ自治政府のリヤド・

アル・マリキ外相等とも会談した。

▶25日、同大統領は、南東欧諸国の首脳と二国間会談を行った他、ボコヴァ・ユネスコ事務局長、グテレス国連難民高等弁務官と会談した。

▶同日、同外相は、EU各国外相会合に参加しシリア難民の流入問題を説明し、ヤーグラン欧州評議会事務局長と会談した。

▶26日、同外相は、シリア危機の人道的側面に関する閣僚級のハイレベル会合に参加した。本会合は国連総会のサイドイベントの一つであり、ゲオルギエヴァ・人道支援担当欧州委員とジュデ・ヨルダン外相によって組織された。

▶28日、同外相は、アジア各国の各外相、パスクアル米務省エネルギー関連特使、国連とアラブ連盟合同のシリア特別代表ブラヒミ氏等と会談した。

◆タジャニ欧州委副委員長のブルガリア訪問

▶24日、欧州委員会のアントニオ・タジャニ副委員長（産業担当）がブルガリアを訪問し、EUの次期計画期間における欧州の展望及び挑戦に関する会議に出席した。また、同副委員長は、ポポヴァ副大統領、オレシャルスキ首相とも面会した。

◆ハーン地域政策担当欧州委員のブルガリア訪問

▶27日及び28日、ヨハネス・ハーン地域政策担当欧州委員がブルガリアを訪問した。同委員は、オレシャルスキ首相、ズラタノヴァ副首相兼司法相、ファンダコヴァ・ソフィア市長と面会した。両者はEUファンドの消化を含む重要事項について幅広く議論した。同委員は、EUファンドの消化の鍵は、中央及び地方の両方の行政部門において経験かつ能力のある職員がいるかどうかであると述べた。

=====

経 済

1. マクロ経済

◆政府債務は過去4年間で21億ユーロ増加

▶3日の財務省の発表によると、政府債務は過去4年間で21.5億ユーロ増加し、7月末時点で69億ユーロに達した。また、財政準備金は21.4億レヴァ減少し、55.7億レヴァとなった。国家予算法によると、財政準備金は年末時点で45億レヴァを超えていなければならない。2日、財務省は国際市場で3億レヴァの新規国債を発行した。過去数年間、対内政府債務は17.7億ユーロから32億ユーロに増加した。対外債務は3.75億ユーロから37億ユーロに増加した。なお、7月末時点で政府債務は対GDP比17.1%であり、EU内ではエストニアに次いで2番目である。

◆今年第2四半期成長率は前期比▲0.1%

▶4日の国家統計局の発表によると、ブルガリアの今年第2四半期の成長率は前期比で▲0.1%となった。なお、EUでは不景気を克服し、0.4%の四半期成長率を記録している。今年第2四半期のGDPは193.9億レヴァであり、年ベースの成長率は0.2%である。また、一人当たりGDPは1,363ユーロ。前年同期比での増加分野は、農業分野(6.2%)、専門的活動及び研究分野(2.7%)、情報及び通信の創設及び配分分野(2.6%)、金融及び保険分野(2%)などである。

◆家計貯蓄の増加

▶10日、ブルガリア国立銀行の統計によると、1月から7月までの家計貯蓄額は合計8.04億レヴァとなった。また、総貯蓄総額は4年連続で増加しており、7月末時点で372.6億レヴァに達した。なお、預金利率の低下により利息収入は低下している。

◆昨年の非EU諸国への輸出は12%増加

▶10日の国家統計局の発表によると、2012

年の非EU諸国への輸出は前年比で12.4%増加し、168億レヴァに達した。主な輸出相手国は、トルコ、ジブラルタル、中国、ロシア、セルビアであり、輸出額の49.8%を占める。

非EU諸国からの輸入も前年比で10.7%増加し、206億レヴァに達した。主な輸入相手国はロシア、トルコ、中国及びウクライナである。2012年のブルガリアの非EU諸国に対する貿易赤字は38億レヴァとなった。

◆年間ベースでのデフレを記録

▶12日、国家統計局は、45ヶ月ぶりに年間ベースでのデフレを記録し、物価は年ベースで2.2%下落した。前回のデフレは2009年の11月に記録されたが、0.1%のデフレに留まっていた。今回のデフレは過去14年間で最大である。なお、最大のインフレは1999年5月に記録されている。8月は6ヶ月連続のデフレを記録し、0.6%のデフレとなった。8月は前月と比較し、食料及び飲料の価格が0.8%下落した。

◆7月までのFDIは前年同期比33%減少

▶16日発表のブルガリア国立銀行の暫定統計によると、今年1月から7月までの7ヶ月間の外国直接投資(FDI)は8.02億ユーロであり、前年同期の11.98億ユーロと比較し33%の減少となった。7ヶ月間における最大の投資流入はオランダ(4.87億ユーロ)からであり、次はオーストリア(8,130万ユーロ)だった。また、最大の投資流出は英国(▲4,270万ユーロ)で記録された。なお、7月のFDIは1.14億ユーロであり、前年同期の8,060万ユーロと比較して増加した。

◆ブルガリアの経済的自由度は世界第49位

▶19日、カナダのフレイザー研究所の「世界の経済的自由に関する年間報告書」2013年度版によると、2011年におけるブルガリアの経済的自由度の順位は世界151ヶ国のうち49位であることが報じられた。2010年の47位から

若干低下した。1位は香港であり、以下シンガポール、ニュージーランド、スイスが続く。最下位はベネズエラとなっている。

◆ブルガリアの高齢化社会に関する世銀報告書

▶20日の報道によると、ブルガリアの高齢化社会による経済的影響に関する世銀の報告書は、ブルガリアでは2050年には100名の労働者が109名の年金生活者を支えることになる、と分析している。なお、現時点では100名の労働者で77名の年金生活者を支えている。さらに、成人の25%が年金受給資格を満たさないため年金を受け取ることができず、3名のうち1名が65才以上となることが予測されている。

◆ブルガリアの金準備は13.5億ユーロ

▶23日の報道によると、8月末時点のブルガリア国立銀行における金準備は13.5億ユーロである。7月の12.9億ユーロと比較すると増加しているが、1月の15.9億ユーロと比較すると減少している。年初来の減少は、国際市場における金価格の低下によるものである。ブルームバーグの統計によると、金価格は1月以来、17%低下した。

◆来年1月から最低賃金を340レヴァに引き上げ予定

▶30日、アデモフ労働社会政策大臣は来年1月1日から最低賃金を340レヴァに引き上げると発表した。また、政府は1才から2才までの子供手当を310レヴァから340レヴァに引き上げることも検討している他、年金の増加率を決定するスイス・ルールも来年から再導入される予定である。

2. 経済政策, 産業

(1) 電力業界の動き

◆ベレネ原発建設プロジェクト中止に係る仲裁裁判でNEK側の敗訴の可能性の指摘

▶18日、ベレネ原発建設プロジェクトの中止に関し、露ロスアトム社の子会社であるアトムストロイエクスポルト社が国営電力会社(NEK)に対し提訴している仲裁裁判について、NEK側が敗訴する可能性がある、とのブルガリア側の国際ローファームの書簡が、GERBにより明らかにされた。理由は、NEK側の専門家や証人の対応が遅れているからであり、敗訴により国は8.7億ユーロを負担する可能性がある。

(2) EU関連

◆年末までに契約締結が必要なEUファンドは6.1億レヴァ

▶9日の報道によると、年末までに契約締結が必要なEUファンドは6.1億レヴァであり、さなければそれらを失うことになる。EU規則によると、現在の計画期間(2007-2013年)にブルガリアが受領するファンドについては、年末までに契約が締結されなければならない。これは、毎日平均700万レヴァが契約されなければならないことになる。7つの実施プログラムのうち6つのプログラムで未締結分のファンドがある。未締結のファンドが最も多いのは競争実施プログラムである。総予算22.7億レヴァのうち締結済みであるのは85.5%にとどまっている。全プロジェクトは2014年末までに完了する必要があり、その翌年末までにファンドが支払われることになる。現在、EUファンドの消化率は45%となっている。

▶13日、ズラタノヴァ副首相は、国民議会の公聴会において、年末までにブルガリアは6つの実施プログラムにおいて約2.7億ユーロを失う可能性がある、と述べた。

◆次期EUファンドの地方開発プログラムは23億ユーロ

▶24日、グレコフ農相は、次期計画期間のEUファンドにおける地方開発プログラムについて、ブルガリアは当初の予測である20億ユーロよりも多い23.38億ユーロを受領する予定である、

と発表した。なお、次期計画期間における農業に関するEUの予算は総額849.36億ユーロである。

◆次期EUファンドの輸送実施プログラムは道路と鉄道に半分ずつ配分予定

▶26日、パパゾフ運輸相は、2014年から2020年の次期計画期間におけるEUファンドの輸送実施プログラムは、道路と鉄道のインフラプロジェクトに半分ずつ配分する予定である、と発表した。次期計画期間の輸送実施プログラムの総予算は15億ユーロであり、コネクティング・ヨーロッパ・ファシリティ（CEF）から追加の3.5億ユーロが拠出される予定である。鉄道分野におけるプロジェクトの総費用は10億ユーロ。優先順位の第1位はプロヴェディフブルガス線の改修工事の完成である。第2位はカルノバトーションデル線の完成であり、トンネルの完成が残っている。その他、次期計画期間においては、ヴァルナ市とルセ市の連結、ヴィディンーソフィア線の改修、シプカ市のトンネル工事、ソフィア市地下鉄新区間の建設等が予定されている。

◆次期EUファンドではブルガリアは一人当たり970ユーロを受領予定

▶26日、ハーン地域政策担当欧州委員のインタビューにより、ブルガリアの国民は他の中・東欧諸国の国民と比較し、次期計画期間のEUファンドの受領額が最も少ないことが分かった。次期計画期間では、ブルガリアは合計71.28億ユーロを受領する予定であるが、国民一人当たりでは970ユーロとなる。一方、国民一人当たりの金額はルーマニアでは1,016ユーロ、ポーランドでは1,880ユーロ、ハンガリーでは2,055ユーロである。27日及び28日、同委員はブルガリアを訪問し、ブルガリアはEU内で消化率が一番悪い国ではないが、ファンドを失うことを防ぐ手立てを考えるべきである、と述べた。

(3) 非EU諸国との関係

◆オレシャルスキ首相の中国訪問

▶9日から12日にかけて、オレシャルスキ首相とは中国を訪問した。ボベヴァ副首相とグレコフ農相も同行した。中国側はブルガリアへの投資について、鉄道分野、港及び道路のインフラ、観光、技術等への関心を示した。また、李国務総理はローズオイルに大きな関心を示した。

▶ボベヴァ副首相は、中国はブルガリアの文化遺産、温泉、ドナウ河クルーズに関心がある、中国最大の国営建設会社である中国建築工程総会社がブルガリアでの建設に関心を示している、と述べた。

▶グレコフ農相は、中国側がブルガリアの農業に関心を有していると発表した。同大臣によると、現在ブルガリアは中国にとうもろこしを輸出している。濃縮アルファルファ粉末の取引に関する交渉も行われている。中国はブルガリアから粉ミルクの他、羊肉、馬肉及び牛肉を輸入することを希望している。また、中国はブルガリアの有機農場に関心を示している。なお、中国は土地の購入に関心を持っているが、ブルガリアは土地ではなく製品を輸出したい考えである。

▶11日、オレシャルスキ首相はサマー・ダボスとして知られる大連市の「世界経済フォーラム」のオープニングに出席した。同首相は、最も豊かな中国人起業家であるワン・ジエンリン氏と会談し、ブルガリアでの起業を呼びかけた。これに対し、同氏はブルガリアの温泉観光及びローズオイル産業に関心を示した。また、同氏は、年末までに投資機会を探るためにブルガリアを訪問すると約束した。その後、同首相は、中国の最も大きな銀行のうちの一つの銀行の頭取と面会した。

▶12日、オレシャルスキ首相は欧州の新たな可能性についての討論に参加した。同首相は、輸出志向の生産と輸出の促進は、ブルガリアが危機から再生するきっかけとなる、と述べた。同首相によれば、ブルガリアのような小国にとって必要なのは輸出の促進である。同首相は、現在のブルガリア経済における経済の再構築及び構造的施策は財政規律よりも重要である、と述べた。

▶2012年、ブルガリアの対中輸出は前年比102%増となった。昨年のブルガリアの対中物品・サービス輸出は5億9500万ユーロであり、対非EU諸国輸出の中ではトルコに次ぐ第2位となった。中でも、銅及び銅合金は対中輸出の73%を占めた。ブルガリアの対中輸出の多くは原材料、食料品、ボール紙、自動制御装置の部品等であり、ハイテク製品は殆どない。なお、国家統計局の統計によると、2013年上半期のブルガリアの対中物品・サービス輸出は6億1630億レヴァであり、前年同期比5.1%減となっている。対中輸入も10%減少し、8億7030万レヴァとなった。また、2013年上半期の対中貿易収支は2億5400万レヴァである。

◆医薬品等に関するブルガリア・中国フォーラムの開催

▶17日、ソフィア市において、医薬品及び医療製品に関するブルガリア・中国フォーラムが開催された。クラシン・ディミトロフ経済次官は、ブルガリアから中国への医薬品や医療製品の輸出はさらに拡大する可能性がある、と述べた。

(4) エネルギー関連

◆ブルガルガスがシャー・デニス・コンソーシアムと天然ガス供給に関する契約を締結

▶19日、ブルガルガスを含む欧州の9つの会社は、バクーにおいて、シャー・デニス・コンソーシアムと天然ガスの購入に関する契約を締結した。本契約は25年契約で、ブルガリアにはアゼルバイジャンから年間10億立法メートルの天然ガスが供給される。ブルガリアへの天然ガスの供給は最速で2019年となる見通し。

これはブルガリアにとって天然ガス供給源の多様化を図る初めての契約である。天然ガスの供給は、トルコとギリシャとの連結完了後のTAPパイプラインにより行われる予定。

(5) その他

◆ブルガリアのワイン輸出は5%増加

▶1日、2013年上半期のブルガリアのワイン輸出が前年同期比で5%増加したことが分かった。2012年は6千万リットルのワインが輸出され、主な輸出先はロシア、ルーマニア、ポーランド、中国などだった。ワイン業界は、約800万ユーロの製品広告のためのEU補助金を利用して、米国、シンガポール、日本、中国などの海外市場を開拓しようと試みている。

◆BMWなどの自動車部品工場の建設予定

▶22日の報道によると、4つの大企業がBMW、メルセデス、ルノーその他の自動車の部品を製造する工場をブルガリアに建設する予定である。この投資計画は初期段階だが、4千人の雇用を生み出す予定である。ストイネフ経済大臣は、ルセ市の仏モンテュペ社の新倉庫のオープニングにおいて、来年は7つの大企業が15億レヴァを投資し、1,400名の雇用を創出する予定であると発表した。内部情報によると、投資企業はスイス、ロシア、トルコ、イスラエルの他、ブルガリアの企業も含まれるとのことであり、食品産業、電気産業、輸送、インフラ分野に投資が行われる予定である。

◆アナログ放送の廃止

▶30日、テレビのアナログ放送が終了し、全てデジタル放送に移行した。しかし、アンテナ等のデジタル化対応が完全に終了していないため、主に過疎地域に居住する人々を含む人口の5%以上がテレビを見ることができない状況であると見られる。デジタル放送は本年3月1日から導入されたが、9月30日まではアナログでの放送も並行して行われてきた。元来、アナログ放送の終了はEUにより2012年1月1日までとされていた。

=====
我が国との関係

**◆ノン・プロジェクト無償資金協力見返り
資金活用プロジェクト:「プレヴェン医科大
学施設整備計画」完工式の実施**

▶24日、プレヴェン市において、ノン・プロ

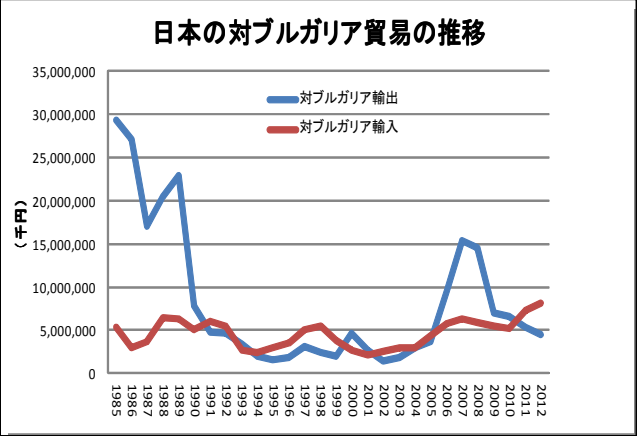
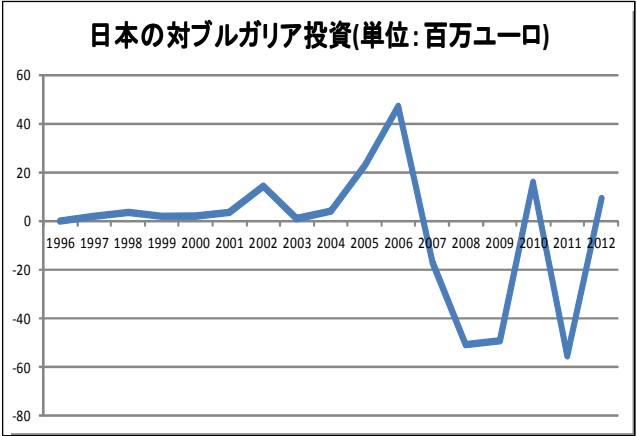
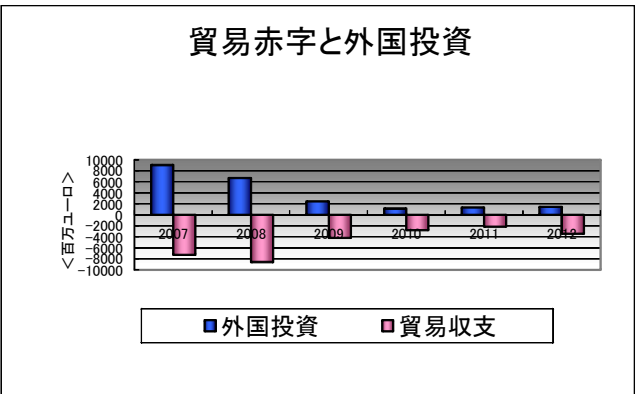
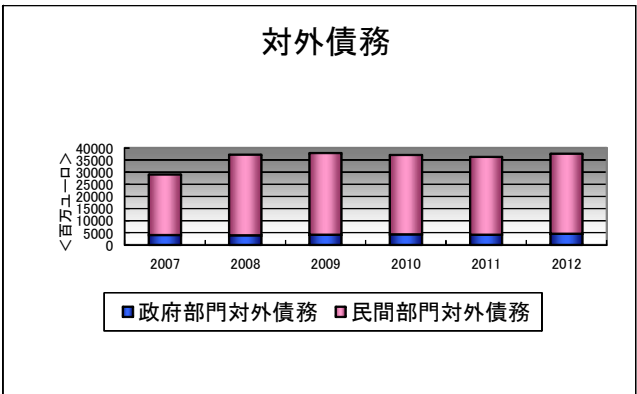
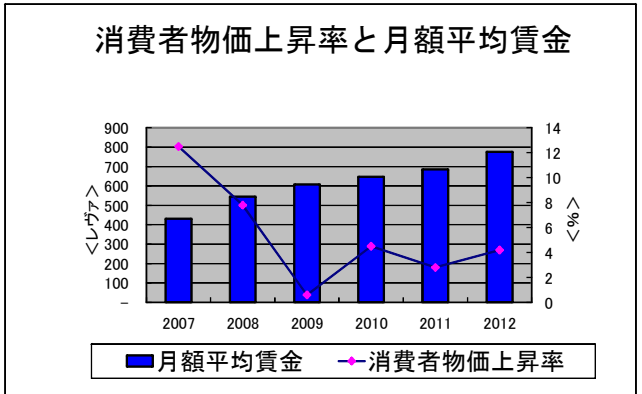
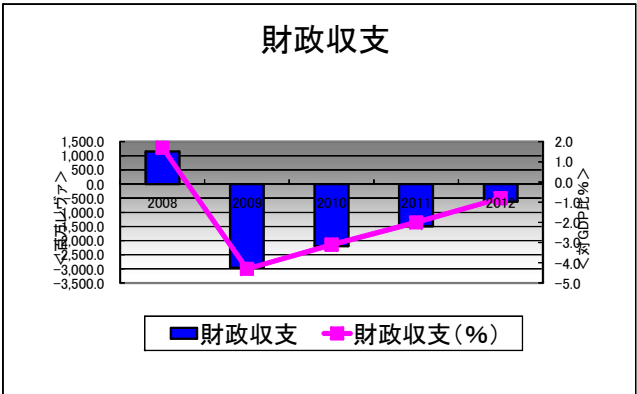
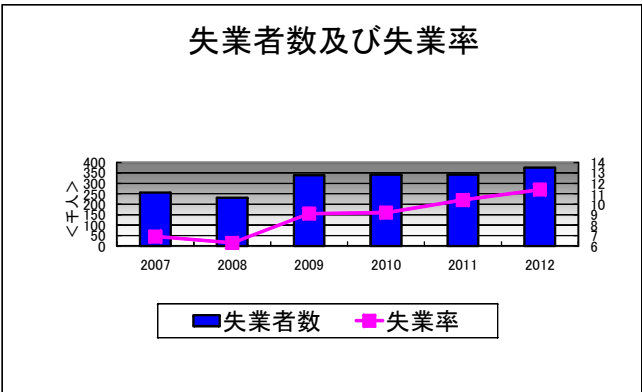
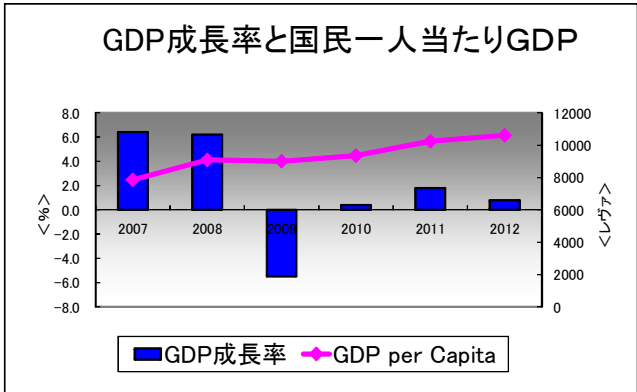
ジェクト無償資金協力見返り資金活用プロジ
ェクトである「プレヴェン医科大学施設整備計
画」に係る完工式が行われた。

ブルガリア内政・外交の動き（9月）

在ブルガリア大使館

1（日）	
2（月）	
3（火）	
4（水）	●国民議会の夏期休会後の開会，国民議会前では抗議行動
5（木）	
6（金）	☆ヴィゲニン外相：EU外相非公式会合への出席（～7日）
7（土）	
8（日）	
9（月）	☆オレシャルスキ首相：中国訪問（～12日）
10（火）	
11（水）	
12（木）	☆プレヴネリエフ大統領：エストニア訪問（～13日）
13（金）	☆オレシャルスキ首相：ブリュッセル訪問
14（土）	
15（日）	
16（月）	
17（火）	
18（水）	●シリア情勢に関する共同声明の発表 ★ニコリッチ・セルビア大統領：ブルガリア訪問（～19日） ☆ヴィゲニン外相：ワシントン訪問（～20日）
19（木）	●GERBによるオレシャルスキ政権に対する不信任案の提出
20（金）	
21（土）	
22（日）	
23（月）	☆プレヴネリエフ大統領，ヴィゲニン外相：第68回国連総会への出席等
24（火）	★タジャン欧州委員会副委員長：ブルガリア訪問
25（水）	
26（木）	
27（金）	
28（土）	
29（日）	
30（月）	
31（火）	

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局, 中央銀行)



ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

< GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013Q1	Q2
GDP成長率 (%)	6.2	-5.5	0.4	1.8	0.8	0.8	-0.2
GDP per Capita (BGN)	9,090	9,007	9,359	10,248	10,619	-	-

< 財政収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013Q1
財政収支 (million BGN)	1,156.7	-2,960.6	-2,197.9	-1,491.6	-623.8	224.7
財政収支GDP比 (% of GDP)	1.7	-4.3	-3.1	-2.0	-0.8	0.3

< 失業者数及び失業率 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug
失業者数 (千人)	232	338	342	342	376	392	393	389	380	361	352	355	351
失業率 (%)	6.3	9.1	9.2	10.4	11.4	11.9	12.0	11.8	11.6	11.0	10.7	10.8	10.7

< 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug
消費者物価上昇率 (%)	7.8	0.6	4.5	2.8	4.2	0.4	0.1	-0.5	-0.4	-0.1	-0.4	-0.5	-0.6
月額平均賃金 (BGN)	545	609	648	686	777	773	766	796	809	799	789	-	-

< 対外債務 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July
政府部門対外債務 (million EURO)	3,935.9	4,208.3	4,326.9	4,205.0	4,587.7	4,260.5	4,186.2	4,374.8	4,312.0	4,297.1	4,241.9	4,232.3
民間部門対外債務 (million EURO)	33,310.6	33,608.2	32,699.4	32,089.8	33,047.8	32,944.5	33,054.4	33,225.1	32,998.1	33,200.4	33,083.5	33,064.4

< 対内直接投資と貿易収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July
対内直接投資 (million EURO)	6,727.8	2,436.9	1,151.2	1,330.2	1,480.5	97.8	290.5	476.4	382.2	511.7	688.0	802.5
貿易収支(FOB) (million EURO)	-8,597.7	-4,173.9	-2,763.7	-2,156.1	-3,460.3	-33.9	-349.0	-443.5	-610.7	-928.7	-1,236.7	-1,462.8
輸出(FOB) (million EURO)	15,204.0	11,699.2	15,561.2	20,264.3	20,770.2	1,776.2	3,434.3	5,222.6	7,194.9	8,890.5	10,650.9	12,682.3
輸入(FOB) (million EURO)	23,801.7	15,873.1	18,324.8	22,420.4	24,230.4	1,810.2	3,783.3	5,666.1	7,805.6	9,819.2	11,887.6	14,145.1